韓国の男女関係における魅力と満足度[1]

川　名　好　裕（立正大学心理学部教授）

Attractiveness and Satisfaction in Male and Female Relationships in Korea

Yoshihiro KAWANA（*Rissho University, Professor of Department of Psychology*）

Abstract

A questionnaire survey was conducted to Korean university students about the relationship between men and women of the opposite sex. Data on 42 men and 31 women was collected. The contents of the questionnaire are the attractiveness of the other party, one's attractiveness, the content of interaction, love for the other party, love from the other party, relationship satisfaction, relationship happiness, and so on. From the factor analysis of the attractiveness items of the other party, three attractive factors of physical attractiveness, personality attractiveness, and practical attractiveness (position, wealth, ability) were extracted.

It was found that men demanded "physical attractiveness" from the woman in friendships and unrequited love relationships, and the degree of "physical attractiveness" of the other party was closely related to the degree of relationship satisfaction. However, when it comes to lover relationships, it was found that relationship satisfaction is caused not by the attractiveness of the other party, but by love for the other party and love from the other party.

Regarding women, it was found that they expect men to have practical attractiveness such as status, wealth, and ability in unrequited love, but the factor that causes relationship satisfaction in lover relationships is the partner's "personality attractiveness" and "communication and co-action" with the other party.

Men and women are attracted by "complementarity of attractiveness" in the initial relationship, but it turned out that when it comes to a lover relationship, the relationship becomes closer due to mutual love, communication and co-action.

Key words：Korean university student, Male and Female Relationships, attractiveness, love, relationship satisfaction

問題と目的

先行研究

川名（2019）は、インターネット調査で、東京および隣接県の年齢20歳～49歳で男性518名の男性と女性606名のデータを収集した。身近な日常生活の中で最も親密な異性を想定してもらい、その関係が友達、片思い相手、恋人、婚約者、結婚相手、不倫相手の６関係についてデータを分類した。

異性パートナーの相手の魅力を因子分析した結果、美的魅力、地位と富、対人的魅力、社会的魅力の４つの因子を抽出し、これらの因子得点を目的変数として設定し、比較変数としては、本人の性別、相手の年齢の年代、相手との関係の三元配置多変量分散分析を行い、関係ごと、男女別、年代別に相手の魅力ごとに平均値を比較した。分析の結果、男性の相手は、多くの関係で美的魅力と対人的魅力が高い女性の相手であった。女性の相手は、多くの関係で地位と富と社会的魅力の高い相手であった。男女がお互い自分のもっていない魅力を相手に求めているという「魅力の相補性」が確認された。

次に関係満足度、関係幸福度について、性別、年代、相手との関係という三元配置多変量分散分析を実行して平均値を比較した結果、関係満足度、関係幸福度とも婚約者が最も高く、次に結婚相手、恋人相手の順であった。不倫関係は結婚関係より関係満足感、関係幸福感とも有意に低かった。魅力の結果と満足度、幸福度の結果が対応していない矛盾についての研究の検討課題が残った。

本研究の目的

本研究では、こうした男女関係の魅力や関係満足度についての結果が他の国や文化でも共通のものなのか検証するために、まず手始めに日本の隣国である韓国のデータを収集して検討したいと考えた。特に男女交際相手に求める魅力と関係満足度とがどのような関係になっているかを調べるのが本研究の目的である。

方　法

被調査者と調査時期

韓国の大田広域市（テジョンクァンギョクシ）にある培材大学校（ペジェデハッキョ）の日本語学科の日本人および韓国人教員の協力を得て、日本語学科の学生（韓国人）を調査協力者としてデータ収集をお願いした。調査実施期間は2019年10月であった。有効データ数は、合計73人（男性42人、女性31人）の小サンプルデータである。年齢は20歳～26歳で、平均年齢は22歳である。

交際相手のカテゴリーと男女人数データは、Table 1のとおりである。

Table 1　調査データ数（n）内訳

関係	男性	女性	合計
1．友達	13	5	18
2．片思い相手	10	6	16
3．恋人	19	20	39
合計	42	31	73

調査内容

調査項目は、川名（2019）で使われたものと同じものである。

まず、日本語の質問紙項目を韓国語にGoogle翻訳したものを、日本に在住の韓国人１人にチェックしてもらったものを現地の培材大学の韓国人教員にもう一度、翻訳チェックをしてもらって自然な韓国語にしてもらった。

質問紙の初めに以下のように想定してもらう自分の好きな異性を思い浮かべてもらった。

「現在のあなたにとって最も親しくしている異性または好きな異性（配偶者以外の家族を除く）を一人だけ思い浮かべ、以下の各質問にご回答をお願いいたします。回答は匿名であり、個人情報が特定されることはありませんので、ご安心して正直な回答をお願いします。」

その次に、以下のような自分と相手についてのカテゴリー質問であった。当人の性別、年齢、結婚状況、相手との関係（友達、片思い相手、恋人）、相手の年齢、相手の結婚状況。

次に、相手の魅力および自分の魅力について、Table 2の20項目について７段階評定をしてもらった。

Table 2　自他調査魅力項目

問１	かわいい
問２	ルックスがいい
問３	美しい
問４	背が高い
問５	スタイルがいい
問６	上品な
問７	セクシー
問８	健康的な
問９	若い
問10	明るい
問11	面白い
問12	社交的な
問13	思いやりのある
問14	支配的な
問15	有能な
問16	頭がいい
問17	勤勉な
問18	真面目な
問19	お金持ちな
問20	社会的地位が高い

最後に、相手への愛、相手からの愛、相手との関係満足度、関係幸福度を７段階評定でしてもらった。

結果と考察

自他の魅力の因子分析：

自他の魅力20項目について、主因子法、プロマックス法によって因子分析をした結果、相手の魅力については、「外見的魅力」、「性格的魅力」、「地位・富・有能性」の３因子を抽出した。自分の魅力については、「外見的魅力」、「外向性」、「誠実性」、「地位・富・有能性」の４因子を抽出した。相手の魅力と自分の魅力の因子分析の結果はおおよそ似ているが、自分の魅力の認知においては、相手の魅力の「性格的魅力」が「外向性」と「誠実性」に分化していると見ることができる。

自他の魅力の因子負荷量の高い項目をTable 3に示す。

相手の魅力の多変量分散分析：

因子分析の結果、抽出された相手の魅力である「外見的魅力」、「性格的魅力」、および「地位・富・有能性」の３つを目的変数とし、また、被調査者当人の「本人性別」、「相手との関係」を比較変数として、二元配置多変量分散分析を行った。

男女別、相手との関係別に３つの魅力因子の平均値をFig. 1に示す。

相手の魅力に関する多変量分散分析の主効果と多重比較検定の結果をTable 4に示す。

Table 3　自他の魅力の因子分析（プロマックス法）

相手の魅力 3 因子

外見的魅力	因子負荷量
A 2 ：ルックスがいい	0.9357
A 3 ：美しい	0.8388
A 6 ：上品な	0.7018
A 5 ：スタイルがいい	0.6910
A 1 ：かわいい	0.6073

性格的魅力	因子負荷量
A10：明るい	0.7960
A11：面白い	0.7959
A12：社交的な	0.7492
A18：真面目な	0.6747
A17：勤勉な	0.6012

地位・富・有能性	因子負荷量
A20：社会的地位が高い	0.8041
A16：頭がいい	0.7458
A15：有能な	0.6909
A19：お金持ちな	0.6320
A17：勤勉な	0.4683

自分の魅力 4 因子

外見的魅力	因子負荷量
J 5 ：スタイルがいい	0.9270
J 6 ：上品な	0.7691
J 4 ：背が高い	0.7106
J 3 ：美しい	0.6784
J 2 ：ルックスがいい	0.6003
J 7 ：セクシー	0.5156

外向性	因子負荷量
J10：明るい	1.0168
J11：面白い	0.7742
J13：優しい	0.7321
J 9 ：若く見える	0.6717
J12：社交的な	0.5869

誠実性	因子負荷量
J18：真面目な	0.9538
J17：勤勉な	0.8401

地位・富・有能性	因子負荷量
J19：お金持ちな	0.8307
J14：支配的な	0.8290
J20：社会的地位が高い	0.8112
J16：頭がいい	0.6429
J15：有能な	0.5928

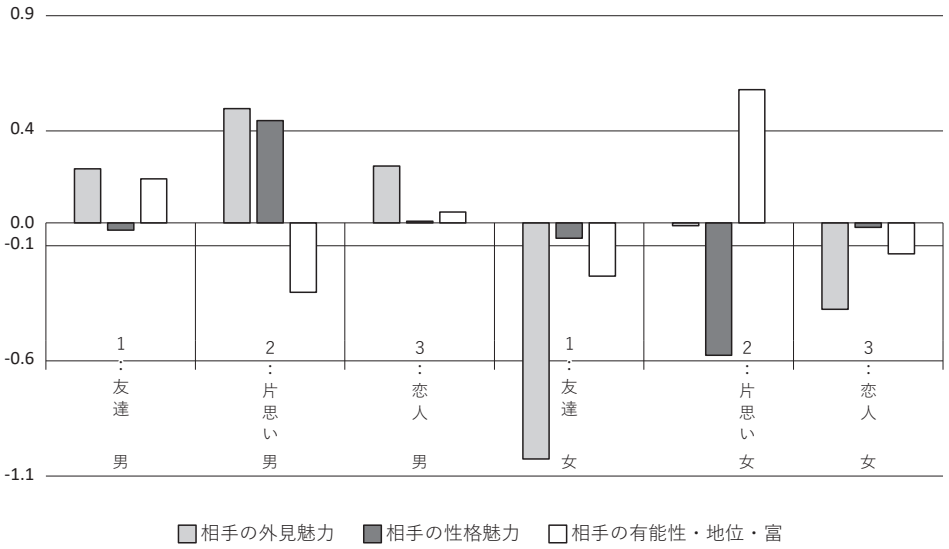

Fig. 1　付き合い相手の魅力因子の平均

Table 4　相手の魅力の多変量分散分析

分散分析表　　*：P<0.05　**：P<0.01

因　子	目的変数	Type Ⅲ平方和	自由度	平均平方	F 値	P 値	
Q 1 ：性別	外見魅力（相手）	8.8622	1	8.8622	10.7371	0.0017	**

「相手との関係」の各水準における「性別」の多重比較検定　　*：P<0.05　**：P<0.01

目的変数	手法	Q 4 ：相手との関係	男性平均	女性平均	差	標準誤差	統計量	P 値	
外見魅力（相手）	Scheffe	1 ：友達	0.2352	−1.0257	1.2610	0.4781	6.9565	0.0104	*
		2 ：片思い	0.4967	−0.0122	0.5088	0.4692	1.1762	0.2820	
		3 ：恋人	0.2473	−0.3761	0.6233	0.2911	4.5865	0.0359	*
性格魅力（相手）	Scheffe	1 ：友達	−0.0320	−0.0666	0.0345	0.5062	0.0047	0.9458	
		2 ：片思い	0.4443	−0.5750	1.0193	0.4967	4.2106	0.0441	*
		3 ：恋人	0.0077	−0.0195	0.0272	0.3082	0.0078	0.9299	
地位・富・有能性（相手）	Scheffe	1 ：友達	0.1914	−0.2317	0.4231	0.5013	0.7122	0.4017	
		2 ：片思い	−0.3015	0.5787	0.8801	0.4919	3.2011	0.0781	有意傾向
		3 ：恋人	0.0472	−0.1342	0.1814	0.3052	0.3533	0.5543	

全般的な魅力の主効果は、外見的魅力の男女差だけが、有意であった。多重比較検定の結果、外見的魅力については、友達関係と恋人関係において、男性の方が女性より有意に高い評価をしていた。性格的魅力においては、片思い関係において、男性の方が女性より有意に高い評価をしていた。また、「地位・富・有能性」においては、片思い関係において、女性は男性より高い評価をする傾向にあった。(p=0.0781)

男性は友達関係、片思い関係、恋人関係において「外見的魅力」の高い相手を選択しているのに対して、女性は友達関係や恋人関係での相手の「外見的魅力」は低い。さらに女性の「片思い相手」では、「性格的魅力」が低くても「地位・富・有能性」のある相手を選択しているようである。

片思い関係というのは、相手から自分が選ばれなくても、自分が相手にどのような魅力を求めているかが分かる関係であるが、男性は片思い相手に外見的魅力と性格的魅力を期待し、女性は「地位・富・有能性」のある相手を期待していることが分かる。付合い相手の魅力期待には明らかな「魅力の相補性」が成立しているようである。

しかし、「片思い関係」と「恋人関係」との魅力の違いを見ると、男性の場合は相手に期待する「外見的魅力」と「性格的魅力」を譲歩する傾向になっている。女性の場合も恋人関係の相手を見れば、「地位・富・有能性」を筆頭にかなりの譲歩をした相手とつきあっていることが読み取れる。

各男女関係における「関係満足度」と「関係幸福度」：

次に男女関係における「関係満足感」と「関係幸福感」を検討してみよう。Fig. 2 に男女別、関係別に関係満足度と関係幸福度の平均のグラフを示す。また、関係満足度と関係幸福度の多変量分散分析の結果を Table 5 に、多重比較検定の結果を Table 6 に示す。

Table 5 の分散分析表で関係満足度と関係幸福度が「相手との関係」において主効果が有意であることが分かった。男女の満足度、幸福度に有意差はなかった。そこで

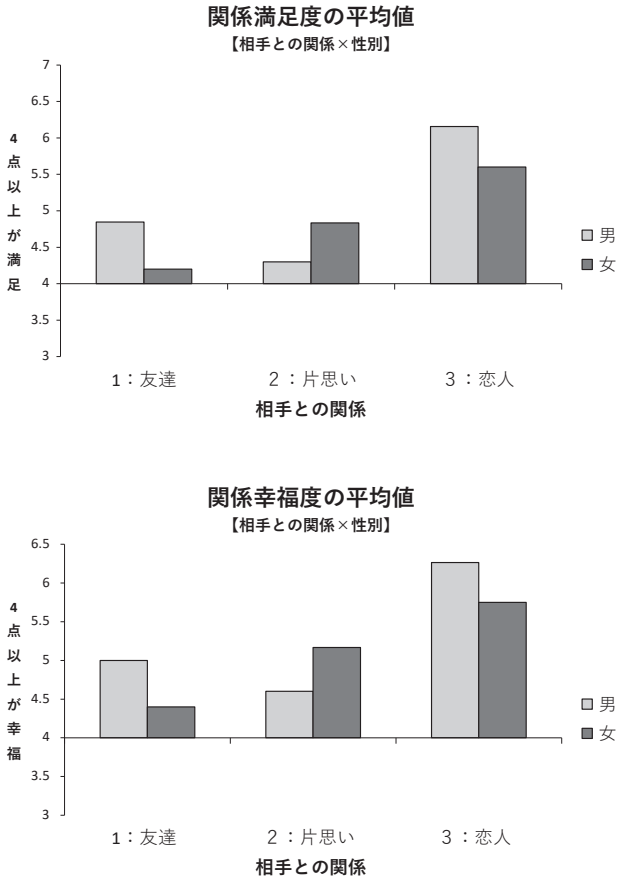

Fig. 2　関係満足度と幸福度

Table 5　分散分析表（満足度と幸福度）

分散分析表　　*：P<0.05　**：P<0.01

因　子	目的変数	Type Ⅲ平方和	自由度	平均平方	F 値	P 値	
性別	K18：関係満足性	0.6961	1	0.6961	0.2609	0.6112	
	K19：関係幸福性	0.4622	1	0.4622	0.1867	0.6671	
相手との関係	K18：関係満足性	29.8472	2	14.9236	5.5937	0.0057	**
	K19：関係幸福性	24.9338	2	12.4669	5.0358	0.0092	**
性別×相手との関係	K18：関係満足性	3.6611	2	1.8306	0.6861	0.5070	
	K19：関係幸福性	3.5839	2	1.7920	0.7238	0.4886	

Table 6　多重比較検定（満足度と幸福度）

「性別」の各水準における「相手との関係」の多重比較検定　　*：P<0.05　**：P<0.01

目的変数	手法	性別	水準 1	水準 2	平均 1	平均 2	差	標準誤差	統計量	P 値	
関係満足性	Scheffe	男	1：友達	2：片思い	4.8462	4.3000	0.5462	0.6870	0.3160	0.7302	
			1：友達	3：恋人	4.8462	6.1579	1.3117	0.5879	2.4891	0.0906	有意傾向
			2：片思い	3：恋人	4.3000	6.1579	1.8579	0.6381	4.2383	0.0185	*
		女	1：友達	2：片思い	4.2000	4.8333	0.6333	0.9891	0.2050	0.8151	
			1：友達	3：恋人	4.2000	5.6000	1.4000	0.8167	1.4693	0.2374	
			2：片思い	3：恋人	4.8333	5.6000	0.7667	0.7603	0.5084	0.6038	
関係幸福度	Scheffe	男	1：友達	2：片思い	5.0000	4.6000	0.4000	0.6618	0.1826	0.8335	
			1：友達	3：恋人	5.0000	6.2632	1.2632	0.5663	2.4874	0.0908	有意傾向
			2：片思い	3：恋人	4.6000	6.2632	1.6632	0.6147	3.6602	0.0310	*
		女	1：友達	2：片思い	4.4000	5.1667	0.7667	0.9528	0.3238	0.7245	
			1：友達	3：恋人	4.4000	5.7500	1.3500	0.7867	1.4723	0.2367	
			2：片思い	3：恋人	5.1667	5.7500	0.5833	0.7324	0.3172	0.7293	

有意差の場所を特定するために多重比較検定を行った。Table 6 の多重比較検定の結果を見て分かるとおり、女性では関係の違いでの有意差はなかったが、男性では、片思い関係より恋人関係の方が関係満足度および関係幸福度が有意に高くなっている。また、男性で友達関係と恋人関係で有意傾向（p=0.09）の差が認められた。

関係満足度の原因としての魅力

Fig. 1 の相手の魅力因子と Fig. 2 の関係満足度および幸福度とは対応していないことが分かる。男女とも片思い関係より恋人関係で相手の魅力因子平均は減少しているにも関わらず、満足度、幸福度とも片思い関係より恋人関係の方が高いからである。

そこで、関係満足度が相手のどのような魅力から生起しているかを検証するために、関係満足度を目的変数にして魅力因子を説明変数とする階層的重回帰分析を行った。

Table 7 の上の 3 つは、関係満足度を目的変数、相手の魅力（外見的魅力、性格的魅力、地位・富・有能性）を説明変数として重回帰分析の結果である。男性においては、友人関係と片思い関係では、関係満足度が相手の「外見的魅力」に基づいていることが分かる。

しかし、男性の恋人関係の重回帰分析の結果は、相手の魅力では説明できないことが判明した。そこで、説明変数に相手の魅力の他に自分の魅力、交流内容、相手への愛、相手からの愛、関係幸福度などすべての説明変数を投入して、再度、重回帰分析を行った結果、「相手への愛」が大きな影響力を関係満足度にもっている判明した。（標準偏回帰係数＝0.9122）

女性のデータに関しては、友人関係、片思い関係のデータ数が10以下であったので、分析できなかったが、恋人関係の重回帰分析の結果は、相手の性格的魅力が関係満足度に関係していることが判明した。

（Table 7 の下 2 つ参照）

男性の恋人関係の特徴

男性の恋人関係における関係満足度と関係幸福度と自他の魅力、交流内容、相手への愛、相手からの愛の関係を調べるために、すべての変数の相関行列表から多次元

Table 7　重回帰分析（満足度と相手の魅力）

階層的重回帰分析（増減法）　目的変数＝関係満足度　説明変数＝相手の魅力因子（外見魅力、性格魅力、地位・富・有能性）
性別および関係

多重共線性の統計量

男性：友人関係	変　数	偏回帰係数	標準誤差	標準偏回帰係数	P 値	*：P<0.05 **：P<0.01	単相関	偏相関	トレランス	VIF
	外見魅力（相手）	0.9025	0.4045	0.5581	0.0474	*	0.5581	0.5581	1.0000	1.0000
	定数項	4.6339	0.3223		P<0.001	**				

多重共線性の統計量

男性：片思い関係	変　数	偏回帰係数	標準誤差	標準偏回帰係数	P 値		単相関	偏相関	トレランス	VIF
	外見魅力（相手）	2.5522	0.6930	0.7931	0.0062	**	0.7931	0.7931	1.0000	1.0000
	定数項	3.0324	0.6660		0.0019	**				

男性：恋人関係	変　数	偏回帰係数	標準誤差	標準偏回帰係数	P 値		単相関	偏相関	トレランス	VIF
	定数項	6.1579	0.2785		P<0.001	**				

階層的重回帰分析（増減法）　目的変数＝関係満足度　説明変数＝自他の魅力、交流内容、相手への愛、相手からの愛、関係幸福度

多重共線性の統計量

男性：恋人関係	変　数	偏回帰係数	標準誤差	標準偏回帰係数	P 値	*：P<0.05 **：P<0.01	単相関	偏相関	トレランス	VIF
	相手への愛	0.8700	0.0948	0.9122	P<0.001	**	0.9122	0.9122	1.0000	1.0000
	定数項	0.7545	0.6004		0.2258					

多重共線性の統計量

女性：恋人関係	変　数	偏回帰係数	標準誤差	標準偏回帰係数	P 値		単相関	偏相関	トレランス	VIF
	性格魅力（相手）	1.1472	0.2791	0.6958	P<0.001	**	0.6958	0.6958	1.0000	1.0000
	定数項	5.6224	0.2645		P<0.001	**				

尺度表示を試みた。多次元尺度では、変数同士で相関の高いものは近くに、相関の低いもの、逆相関のものは空間的に遠いところに配置される。

Fig. 3 に男性の恋人関係における多次元尺度表示を示す。

Fig. 3 の多次元尺度表示で横軸は、カップルの親密性次元と解釈できる。左側がより親密な関係で、右側が疎遠な関係である。縦軸は右側上部に自分の魅力項目が集まっており、右側下部に相手の魅力項目が集まっているので、「自他次元」と解釈できる。

男性の恋人関係における関係満足度と関係幸福度は、相手への愛、相手からの愛と密接に関連しており、そこから派生する「コミュニケーションと共行動」がカップルの緊密性を強固にしているようである。図を見ても分かるように、相手の魅力や自分の魅力の要因は、親密性次元で右側の疎遠な範囲内にあり、恋人関係においては関係満足度と関係幸福度にあまり関係していないことが見て取れる。

女性の恋人関係の特徴

次に、女性の恋人関係における関係満足度と関係幸福度と自他の魅力、交流内容、相手への愛、相手からの愛の関係を調べるために、すべての変数の相関行列表から多次元尺度表示を試みた。Fig. 4 に女性の恋人関係における多次元尺度表示を示す。

多次元尺度表示で横軸は、カップルの親密性次元と解釈できる。右側がより親密な関係で、左側が疎遠な関係である。縦軸は上側に交流内容項目が集まっており、下側に自他の魅力項目が集まっている。相手の魅力は親密側に、自分の魅力は「対人的魅力」以外は、疎遠側に配置されている。

関係満足度および関係幸福度の近くには「コミュニケーションと共行動」、相手の性格魅力、相手の外見魅力などが配置されており、これらが関係満足度、幸福度と密接に関連していることが分かる。重回帰分析の結果からも、関係満足度は、「相手の性格的魅力」そして「コミュニケーションと共行動」からの影響力が高いことが判明した。（相手の性格的魅力の標準偏回帰係数＝.4595、コミュ

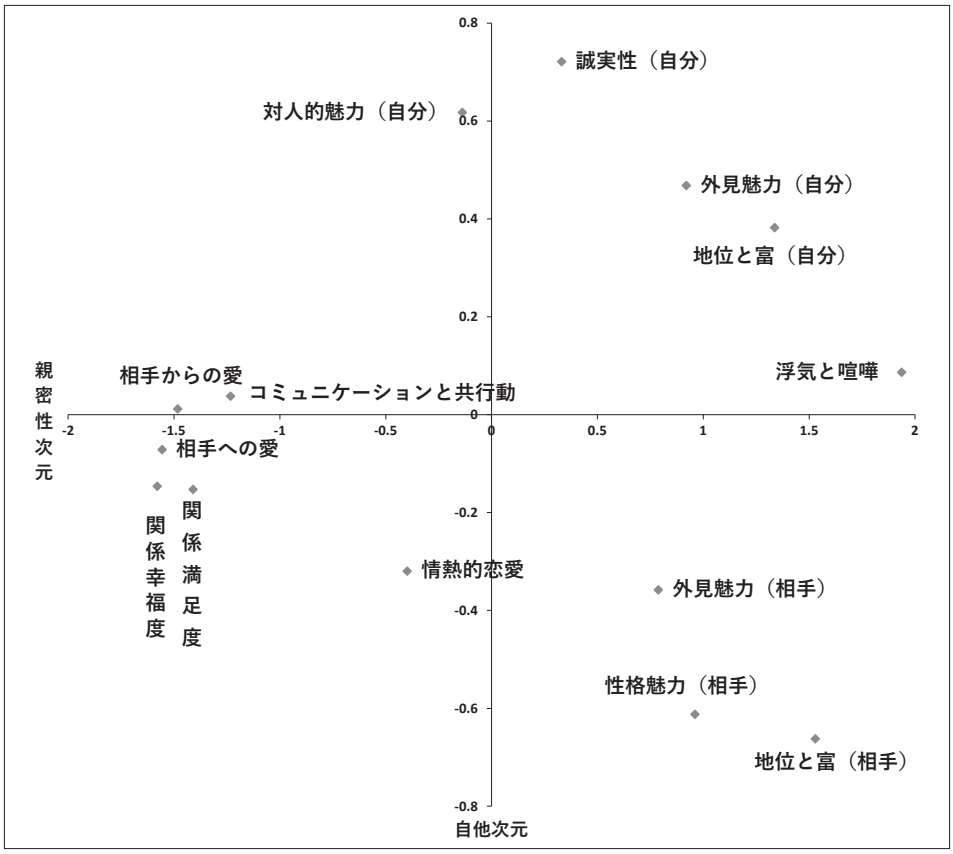

Fig. 3　男性　恋人関係　多次元尺度表示

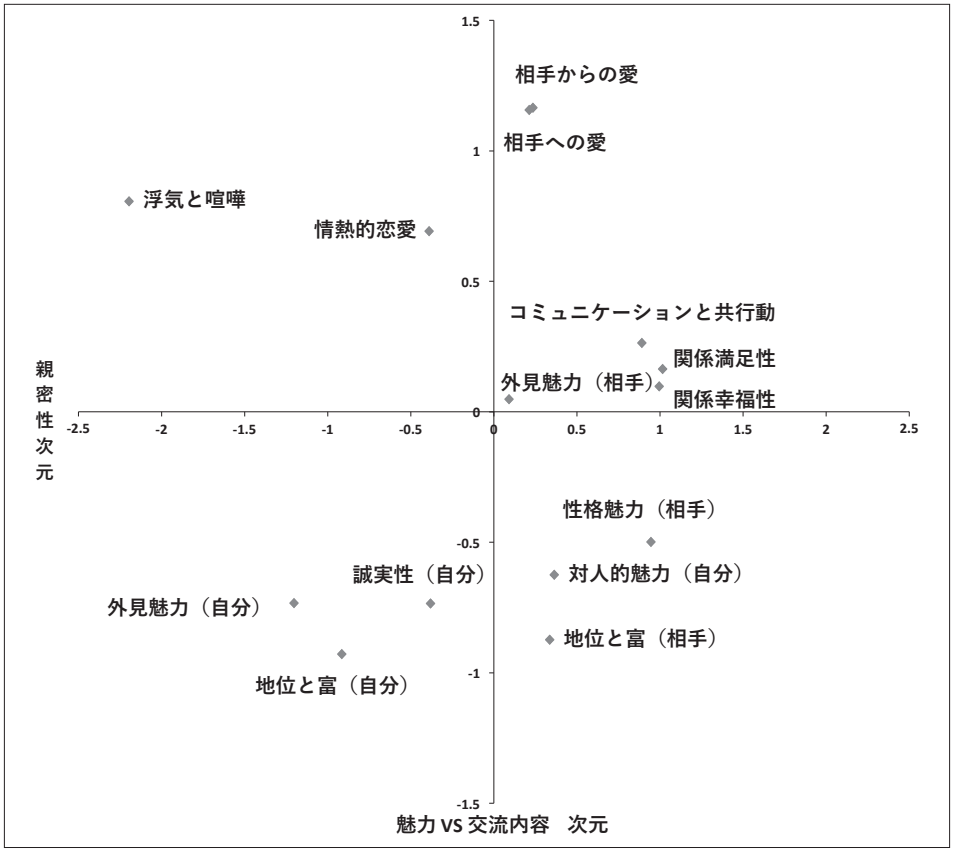

Fig. 4　女性　恋人関係　多次元尺度表示

ニケーションと共行動の標準偏回帰係数＝0.4059）

その他、気づくのは、女性の恋人関係における関係満足度と関係幸福度は、相手への愛、相手からの愛とそれほど緊密な関係ではないということである。（相関係数は、r＝0.4程度）

男性の恋人関係では、関係満足度・幸福度は、相手への愛・相手からの愛と緊密に関連していた。

総合的考察：

魅力の相補性

今回付合い相手の魅力は、因子分析の結果、相手の「外見的魅力」、外向性や誠実性を含んだ「性格的魅力」と社会的地位や富、有能性などの「実利的魅力」に要約できた。男女はどのような魅力を付合い相手に期待しているかを知るには、男女の片思い関係で比較すればよいと考えた。男性は、「外見的魅力」と「性格的魅力」を合わせもった女性を求めているのに対して、女性は男性の片思い相手に「地位・富・有能性」といった「実利的魅力」魅力をもとめていることが分かった。

この結果は、男女が重要な魅力の内、自分たちがもっていない魅力をお互いに相手の異性に期待しているという「魅力の相補性」を示していると言えよう。この男女の「魅力の相補性」は、川名（2019）の日本の男女でもおおよそ同じような結果であった。

男女の恋人関係の違い

どういう魅力の相手と付き合っているかということに関して、男性は、友達関係、片思い関係、恋人関係で一貫して相手の外見的魅力を重要視しているのが分かる。特に片思い関係では最も外見的魅力の相手を選択している。片思い関係での相手で分かるように、男性が女性に期待している魅力は、外見的魅力と性格的魅力であろう。

それに対して女性が相手の男性に期待する魅力には一貫性がない。友達関係では、魅力が外見的魅力をはじめ、全般的に低い相手を選択している。片思い関係になって、「地位・富・有能性」など実利的な魅力をもっている相手を選択しているが、恋人関係になるとまた、魅力が比較的低い相手となっている。女性は男性の性格的魅力以外は、関係満足度に影響していない。性格的魅力のある程度高い相手とコミュニケーションと共行動によって関係満足感や幸福感を感じているようである。

関係満足感と関係幸福感を生み出している要因

Table 7 で見た通り、相手との関係満足感に影響を及ぼしている相手の魅力は、男性では友人関係と片思い関係で、「外見的魅力」であることが分かったが、恋人関係になると相手の魅力のいずれも影響力はなかったので、説明変数に自他の魅力、交流内容、相手への愛、相手からの愛を加えて重回帰分析を行ったところ、「相手への愛」のみが「関係満足度」に最も大きな影響力をもっていることが判明した。

一方、女性の場合は、恋人関係において関係満足度に影響を与えている相手の魅力は、「性格魅力」のみであることが判明した。

友達関係や片思い関係で相手に期待している魅力が恋人関係になると関係満足度に影響しなくなることは興味深い。男性の場合、友達関係や片思い関係で相手に期待している「外見的魅力」は、恋人段階では「相手への愛」にとって代わっている。女性の場合も、片思い段階で相手に期待していた「地位・富・有能性」のような実利的魅力が相手の「性格的魅力」に代わって、「関係満足度」を決定しているのは興味深い。男女は当初の関係で相手に求めていた魅力によってではなく、相手への愛や相手からの愛とそこから派生するコミュニケーションと共行動によって関係の満足感や幸福感が生まれているのである。

引用文献

川名好裕　2019　男女関係における魅力と関係満足度　立正大学心理学研究所紀要17号　1-16

注

1）この研究は、2019年度立正大学心理学部の在外特別研究の一環として企画されたものの一部である。立正大学心理学部に感謝の意を表したい。

要　約

韓国の大学生に対して、付き合っている異性との男女関係についてのアンケート調査を実施した。男性42人、女性31人のデータが取得できた。アンケート内容は、相手の魅力、自分の魅力、交流内容、相手への愛、相手からの愛、関係満足度、関係幸福度などである。相手の魅力項目の因子分析から外見的魅力、性格的魅力、実利的魅力（地位・富・有能性）の３つの魅力因子が抽出された。

男性は友達関係や片思い関係では相手の女性に「外見的魅力」を求めていることが判明し、相手の「外見的魅力」の度合いと関係満足度が密接に関連していた。しかし、恋人関係になると関係満足度は、相手の魅力ではなく、相手への愛、相手からの愛などによって生起されていることが判明した。

女性については、片思い関係で、地位・富・有能性などの実利的魅力を男性に期待していることが分かったが、恋人関係で関係満足度を生起している要因は、相手の「性格的魅力」や相手との「コミュニケーションと共行動」であることが判明した。

男女は初期の関係で「魅力の相補性」で惹きつけられるが、恋人関係になると相互の愛、コミュニケーションと共行動で関係が緊密化するということが判明した。

キーワード：韓国大学生、男女関係、魅力、愛、関係満足度